

## 令和6年度 障害者支援事業部 地域連携推進会議 議事録

|      |   |
|------|---|
| 開催日時 | 令和7年1月19日（日） 午前10時30分～11時30分  |
| 開催場所 | 根郷通所センター（多目的室①）   |
| 出席者  | 利用者4名、利用者家族6名、地域関係者2名、<br>リホープ；中川光男（事業部長・施設長）麻生知明（副施設長）<br>稲垣直子（サービス管理責任者）<br>めいわ；片野明美（施設長）<br>根郷通所センター；菊地暁生（サービス管理責任者）<br>ルミエール；大里英已（施設長）・原宏之（サービス管理責任者）<br>山王の家；岡本綾子（管理者）<br>本部；池田浩一（本部長） |
| 欠席者  | 利用者家族1名   |
| 議 題  | 1. 事業部長挨拶<br>2. 出席者自己紹介<br>3. 各事業所（めいわ・リホープ・ルミエール・山王の家）概要説明<br>事業計画・年間予定等<br>4. 各事業所（めいわ・リホープ・ルミエール・山王の家）での生活<br>について<br>5. 意見交換  |
| 配布資料 | ・次第<br>・事業計画書<br>・地域連携推進会議とは  |

### 1. 事業部長挨拶（趣旨説明）

事業部長）ご出席いただきありがとうございます。本日開催する地域連携推進会議ですが今年度は努力義務とされています。今回初めての試みであり今年度は試行的に実施。次年度より必ず実施しなければならない会議であるため皆様のご協力をお願いしたい。

地域連携推進会議の目的は『利用者と地域の関係づくり、地域の方の施設や利用者の理解の促進、施設サービスの透明性・質の確保、利用者の権利擁護』であり、参加者や回数、会議内容については、資料の〔地域連携推進会議とは〕で確認していただきたい。

### 2. 出席者自己紹介

地域関係者①）愛光の後援会に携わっている。

地域関係者②）愛光の後援会に携わっている。愛光との関わりは21年前からである。

リホープ利用者) リホープの自治会長をしている。

利用者家族①) リホープ家族会会長および評議員をしている。

長年の経過を見てきて、愛光が発展していると感じる。このまま右肩上がりで発展してほしい。

利用者家族②) リホープ家族会副会長をしている。

利用者家族③) 根郷通所センターに子どもが通っている親である。全盲であるため愛光一点で通っている。施設に点字ブロックがあったり、環境的にも優しいと感じている。将来は入所も考えている。

山王の家利用者) よろしくお願ひします。

利用者家族③) ルミエール家族会会長をしている。

ルミエール利用者) よろしくお願ひします。

めいわ利用者) よろしくお願ひします。

利用者家族④) めいわ家族会会長をしている。

各職員より自己紹介

### 3. 各事業所の概要説明

め い わ) スローガンを『ライフ・ワークバランス』とした。高齢化が進んでいる中で安心できる生活と魅力のある活動を目指す。現在56名の利用者が入所しており男性26名、女性30名が利用している。高齢化が進んでいて平均年齢が56.7歳。健康面に配慮し生活の質を高めること、生き甲斐としての活動が大切と考えている。

地域ニーズに即した利用促進ということでショートステイとして地域からの利用も増えている。入所者に対しては、安定した生活の中で利用者の喜びや楽しみを増やしていくということで、季節ごとの行事やコロナ禍で停滞していた外出行事を再開し個に視点を置いた内容を企画し進めている。

リホープ) スローガンを『生き方の意思決定をしっかりと支えよう』とした。意思決定支援と地域移行が国の方から求められている。高齢化、重度化が進んでいる。平均区分が4.8である。高齢化のため、はちす苑へ入所する利用者が増えてきている。自立支援および高齢化支援を強化していく。あわせて外出など行事関係もコロナ前に戻るようにしている。食事・入浴・介護も充足していく予定。

根郷通所) めいわの通所部という形で運営しており、通所施設として日中の活動の場としての役割を担っている。入所施設と比較して平均年齢が突出して若い。スローガンは『安心と信頼の支援で利用者の地域生活を支える』としている。日中の活動としては木工班、陶芸班、内職班を設定しており、自主生産品については酒々井サービスエリアのブースを借りて販売している。

山王の家) 少人数の利用者が地域で生活しているグループホームと言われる施設である。利用者は10名で満床。女性が3名、男性が7名で生活している。日中はそれぞれ法人内の施設などに通われている。夕方16時頃に帰り夜間を過ごし、また朝に出かけていくという流れである。開所して7年、20代の利用者から60代の方が和やかに生活している。

ルミエール) スローガンは『みんな笑顔で想いを形に』とした。利用者の尊厳を守り個人にあった生活を支援する。入所者のほとんどが言葉での意思表示が難しい方であり、職員が利用者の気持ちを汲み取って想いを形にしていかなければ笑顔で暮らすことができないと考えている。施設の最大の特徴としては重度の方が多い。地域生活が困難な方が多いのが現状。

#### 4. 各事業所での生活について

利用者家族④) コロナ禍の時に子供に会えなかった。利用者がわがままも言わず平穩にめいわで生活していた。それを乗り越えて帰省などが出来るようになった。施設にも職員にも感謝している。普通に生活ができることが一番の望み。

めいわ利用者) めいわでの生活は楽しい。手工芸班の洗濯班に所属して靴下とかたたんでいる。工賃を貰ったら外出したい。

利用者家族③) ルミエールの家族会の目的としては『利用者の福祉増進と利用者の家族の相互の親睦を図ることを目的とする』と会則に書いてある。毎月、第三日曜日に家族会を実施している。その際に利用者に会いに来るということも含めている。この会議の後に第三者懇談会が実施される。施設側と良い関係を続けていきたい。

ルミエール利用者) ルミエールの生活が楽しい。野球観戦に行った。西武ライオンズが好き。また野球観戦に行きたい。

山王の家利用者) よもぎの園に通って仕事をしてお風呂に入って寝てます。毎日が楽しい。

利用者家族④) 私の子供は言葉で物事を伝えることが苦手です。根郷通所センターに通所して『さをり織り』を10年近く行っている。本部のギャラリーに飾ってあるので見てほしい。さをり織を作品展に出すことは私の目的です。仕事にならないことも多いが、朝起きれば根郷通所に通う生活のサイクルができています。家族は障害者団体に所属しています。入所施設に入りたいと考えているがタイミングが分からない。根郷通所センターに家族会がない。無いことが不思議である。コロナ前は年に一回報告会があったが現在はない。それを復活させていただきたい。家族が顔を合わせる場が必要であ

ると考えている。一泊旅行や日帰り旅行を復活させてほしい。

利用者家族②) 十数年、愛光の評議員を務めている。この間、愛光の事業が拡大していった。もとは入所施設しかなかったので支援が手薄になるのではないかと考え、前理事長に質問したことがあった。前理事長からは今まで以上に手厚く支援するとの返答を貰った。実際に良くなっている。職員、地域の方々、ボランティアのお陰だと思っている。

利用者家族②) 愛光本部の近くに住んでいる。地元の理解が年々増している。施設と家族の信頼関係が重要であると考えている。マイナンバーカードの取り扱いについてどのような扱いになるのか教えていただきたい。

リホープ利用者) リホープの受注班に所属している。エレクトーンクラブでは福祉学習で演奏をしたり活動の幅を広げている。楽しく生活している。

事業部長) マイナンバーカードについて、厚生労働省と千葉県の見解が違っているのが現状である。現状としては施設でマイナンバーカードは預かれない状況。各団体に聞いているがどの団体も困っているようである。分かり次第報告をさせて頂きたいと思う。

#### 4. 意見交換

地域関係者①) 会議の前に各施設を見学させていただいた。30年経っているとのことだが施設が明るく清潔で驚いた。家族・利用者の話を聞いていると楽しんでいることが伝わってくる。現在、B型就労の家族と関わっている。家族が年を取って先々を心配している、

グループホームの必要性を実感している。愛光は様々な事業展開を行っているので頼もしく思っている。また、愛光後援会の方でもご家族と関わりを持てるようなイベントを考えていきたい。

地域関係者②) 愛光と関わるようになってから変わらぬ思いがある。職員が穏やかである。地域の一員として愛光とどのような繋がりを持つべきか考えている。時々非日常的なものを感じてもらえれば新しい物が生まれるのではないかと考えている。そのような場づくりに専念している。昨年[愛とひかりのコンサート]では愛光の利用者が一番会場を盛り上げてくれた。今年は愛の灯台基金のカフェを行っていく予定。家族会のある日の開催を考えている。

利用者家族①) 全国盲重複障害者福祉施設研究協議会の現状を知りたい。

利用者家族③) 来年は岡山で全国大会が開催される。昨年の大会で会長が突然欠席した。資料も何もない状況の中で進行をしなければならなかった。今後はそのような場面でもスムーズに進めなければならないと思った。

本 部 部 長) 本会議は初めての試みである。各事業所の様子を知っていただくとして合同にて行った。時間も短く十分な説明ができなく申し訳なかった。これを期に職員の顔を覚えていただければと思う。障害者支援事業部では各施設連携して支援を行っている。他の施設の利用者の話を聞けるなど良い機会であった。今後に繋げ発展させていければと思う。

ルミエール施設長) はちす苑で10年以上ケアマネージャをしていた時の経験談を話したい。入所を考えている人は困ってから動くのではなくショートステイなど事前に利用しておくが良い。その際に相談支援事業を含めた関係機関とパイプを作っておくと良い。

めいわ施設長) 貴重なご意見、お話をいただきありがとうございました。今回試行的に開催しましたが、事業部長からの挨拶のとおり、次年度よりこの地域連携会議が義務化されますので、時期は未定ですがご協力よろしく申し上げます。